

日 時：平成 29 年 7 月 24 日（月）18：30～20：50

場 所：花川南コミュニティセンター

【 当 日 の 内 容 】

- | | |
|-------------|--|
| 18：30 | 開会 |
| 18：30～18：35 | 主催者挨拶 （石狩市 総務部／及川 浩史 部長） |
| 18：35～19：00 | 策定会議の目的と進め方 （事務局／(株)ドーコン） <ul style="list-style-type: none">・ 本日の流れ・ 地区防災ガイドの振り返り・ 災害情報の説明・ 地区防災ガイドの見直し方針・ 策定会議の進め方 |
| 19：00～20：30 | グループ別意見交換 <ul style="list-style-type: none">①避難ルートについて②防災の心得について |
| 20：30～20：50 | グループ別意見の発表 |
| 20：50 | 閉会 |

Aグループ（花川南1条・2条）

○意見概要

【避難ルートについて】

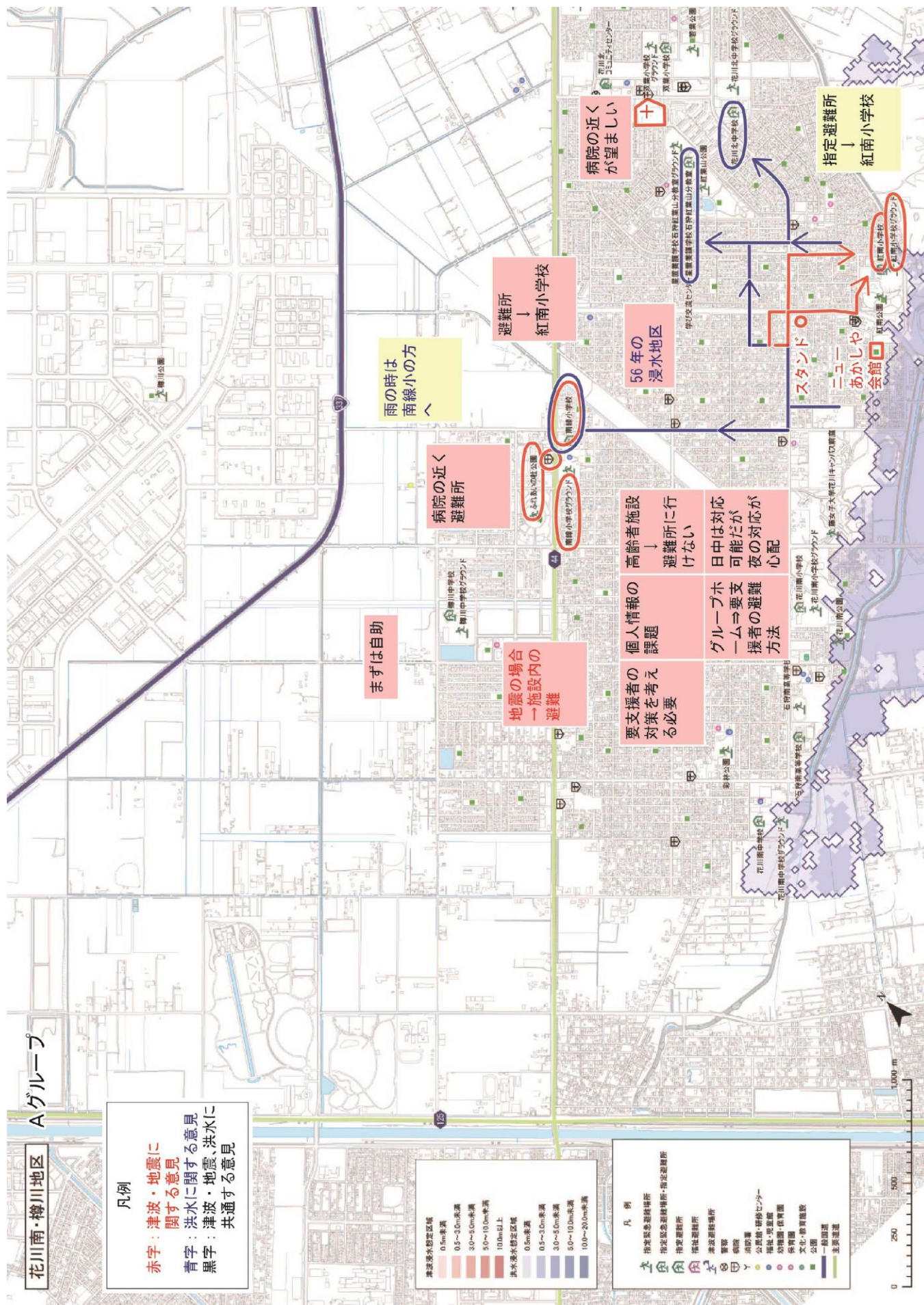
- ・洪水の際には、発寒川から離れた南線小学校に避難するとよいのではないかな。
- ・グループホームの入所者は南線小学校まで避難するのが時間的に難しいため、ニューあかしや会館に避難するとよいのではないかな。また、夜間では職員数が減るため、町内会や市の協力が必要である。

【防災の心得について】

- ・要支援者を把握するだけでなく、どのように助け合うかを検討するのが重要である。
- ・避難訓練の際、避難所の運営の訓練もするべきである。
- ・避難の際は、大きな通りを通ることを優先するのではなく、安全な最短経路を通ったほうがよいのではないかな。



○避難ルートに関する意見



○避難ルートに関する意見交換結果(全意見)

- ・個人情報の課題
- ・要支援者の対策の考える必要
- ・地震の場合→施設内の避難
- ・病院の近く避難所
- ・グループホーム⇒要支援者の避難方法
- ・高齢者施設→避難所に行けない
- ・日中は対応可能だが夜の対応が心配
- ・56年の浸水地区
- ・避難所→紅南小学校
- ・雨の時は南線の方へ
- ・まずは自助
- ・病院の近くが望ましい
- ・指定避難所⇒紅南小学校
- ・ニューあかしや会館
- ・スタンド

○防災の心得に関する意見交換結果(全意見)

【平常時】

- ・④要支援者の把握と対応の検討が大切
- ・⑤避難所運営の方法を学ぶことが大切
- ・傷がい者認知症など状態に応じた支援方法

【災害時】

- ・⑦安全な最短コースを通っていく。

【その他】

- ・認知症の理解（認知症サポート）
- ・具体的に対応しているのか？
- ・要援護者⇒要支援者（制度改正）
- ・500名の町内会で20名⇒要支援者
- ・町内会役員は、傷がい者（認知症）
- ・実際に出来るのか？
- ・避難訓練の実施
- ・災害情報の理解

[illegible]

5

Bグループ（花川南 2～4 条）

○意見概要

【避難ルートについて】

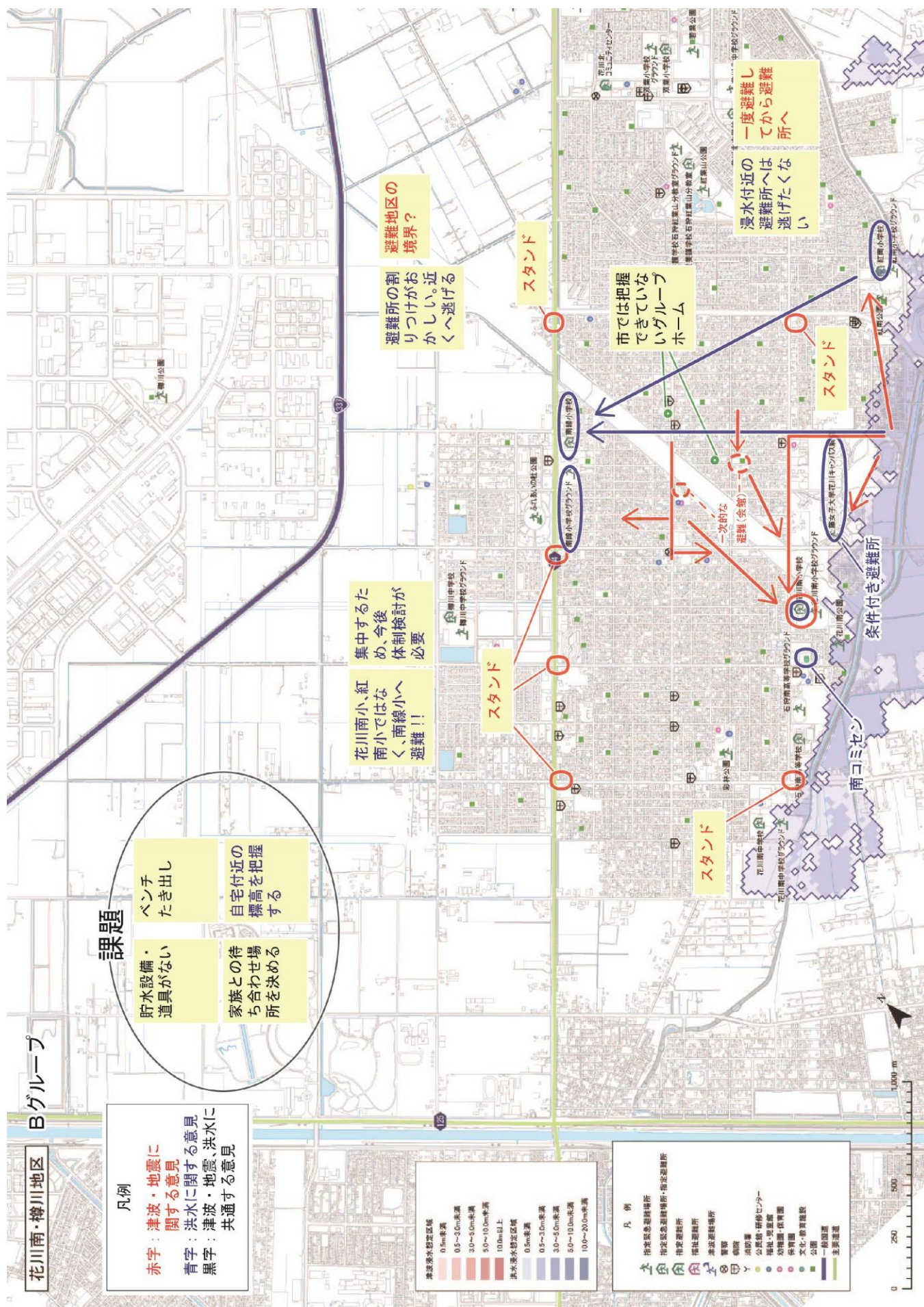
- ・ 現行計画では、町内会ごとに避難所が指定されているため、遠い避難場所に避難することになっている場合がある。町内会区分に拘らず、近いところに避難したほうがよいのではないか。（例えば、花川南小学校の方が近い地区が、南線小学校に避難することになっている場合がある）
- ・ 洪水の場合は、発寒川から遠い南線小学校に避難するのがよいと考えられるが、避難が集中する可能性がある。
- ・ 避難の際は、大きい通りは渋滞の恐れがあるため、防風林沿いの道路を利用するとよいのではないか。

【防災の心得について】

- ・ 避難訓練を数多く、繰り返し行うべきである。その際は、会館のカギを所持している方は開けてみる等、発災時を意識した訓練を行うとよい。また、若者世代をはじめとして、参加率をあげることが重要である。
- ・ 家族で防災会議を開き、集合場所や避難場所を決めておくことが重要である。
- ・ 災害種別によって気をつけることは違うため、心得は災害種別で分けたほうがよいのではないか。
- ・ 自宅付近の標高や危険だと思われる箇所等、地域の地形や特性を把握すべきである。



○避難ルートに関する意見



○避難ルートに関する意見交換結果(全意見)

- ・スタンド
- ・一次的な避難（会館）
- ・避難地区の境界？
- ・南コミセン
- ・条件付避難所
- ・花南小と紅南小は南線小へ！！
- ・集中するため、今後体制検討が必要
- ・避難所の割りつけがおかしい。近くへ逃げる
- ・貯水設備・道具がない
- ・ベンチ たき出し
- ・家族との待ち合わせ場所を決める
- ・自宅付近の標高を把握する
- ・スタンド
- ・市では把握できていないグループホーム
- ・一度避難してから避難所へ
- ・浸水付近の避難所へは逃げたくない

○防災の心得に関する意見交換結果(全意見)

【平常時】

- ・地域の地形等を把握
- ・②待ち合わせ場所
- ・①食料等の備築
- ・災害毎に防災の心得が違う
- ・⑤継続的な避難訓練
- ・個人情報（ドロボウ）
- ・日頃からのコミュニケーション
- ・分けるべき
- ・カギ管理状況の把握

【災害時】

- ・③ 公園と限定しなくてよい

【避難訓練】

- ・参加人数少ない
- ・若者が少ない

[illegible]

Cグループ（花川南 2～6 条、樽川）

○意見概要

【避難ルートについて】

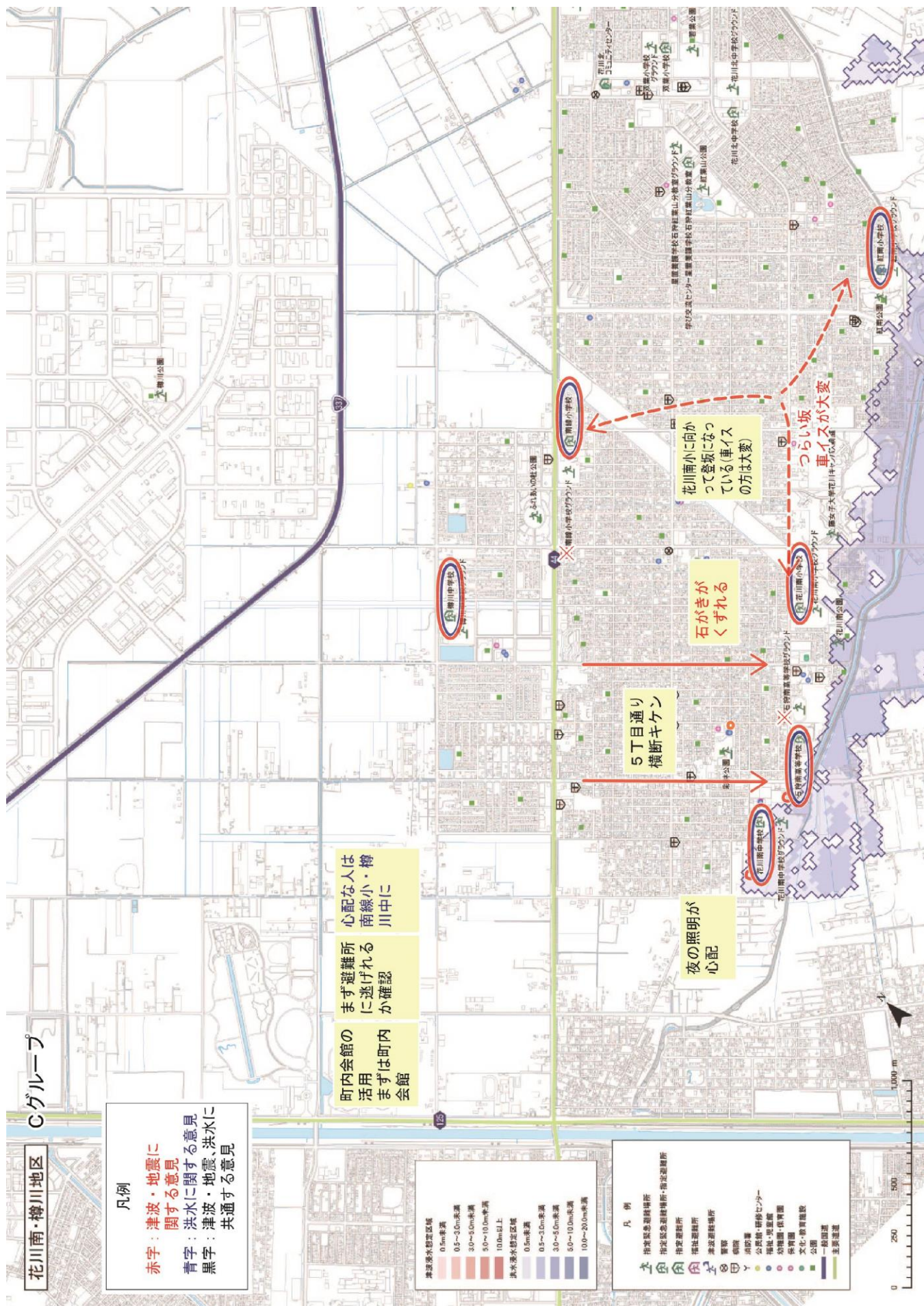
- ・ 発災時には、まずは現行計画の避難場所に避難できるかを確認する。その後、発寒川に近づくのが心配な人は、南線小学校や樽川中学校への避難を検討するとよいのではないか。
- ・ 避難する際は、町内会館に逃げて情報収集を行う。
- ・ 防風林の通りには石垣があるため、発災時は崩れる危険性がある。
- ・ 避難先の各学校のグラウンドに明かりがない場合があるため、不安である。

【防災の心得について】

- ・ 要支援者を町内会単位で援護するためには、まずは公園へ集まることが重要である。ただし、冬季の対応を検討する必要がある。
- ・ 避難完了の札をつくり、避難時に玄関に貼ると、避難できておらず援護してほしい住宅を見つけやすくなるのではないか。
- ・ ペットの避難が心配である。



○避難ルートに関する意見



○避難ルートに関する意見交換結果(全意見)

- ・夜の照明が心配
- ・町内会館の活用 まずは町内会館
- ・心配な人は南線・樽中に
- ・まず避難所に逃げれるか確認
- ・5丁目通り横断キケン
- ・石がきかくずれる
- ・花川南小に向かって登坂になっている（車イスの方は大変）
- ・つらい坂。車イスが大変

○防災の心得に関する意見交換結果(全意見)

【平常時】

- ・追加、避難場所を2か所覚えよう！
- ・一時的な避難場所と最終避難所のルートを知る 行動マニュアル
- ・援護を必要とする人の近所の声かけ。
- ・自主防災会の行事に積極的に参加する
- ・近所の絆づくり

【災害時】

- ・ペット（犬・猫）（家族と同じ）の避難と収容
- ・非常持ち出しを自分で用意持参
- ・避難完了の標識
- ・ためらわず避難しよう！
- ・冬の指定緊急避難場所
- ・自主防災しよう！



Dグループ（花川南8条・9条）

○意見概要

【避難ルートについて】

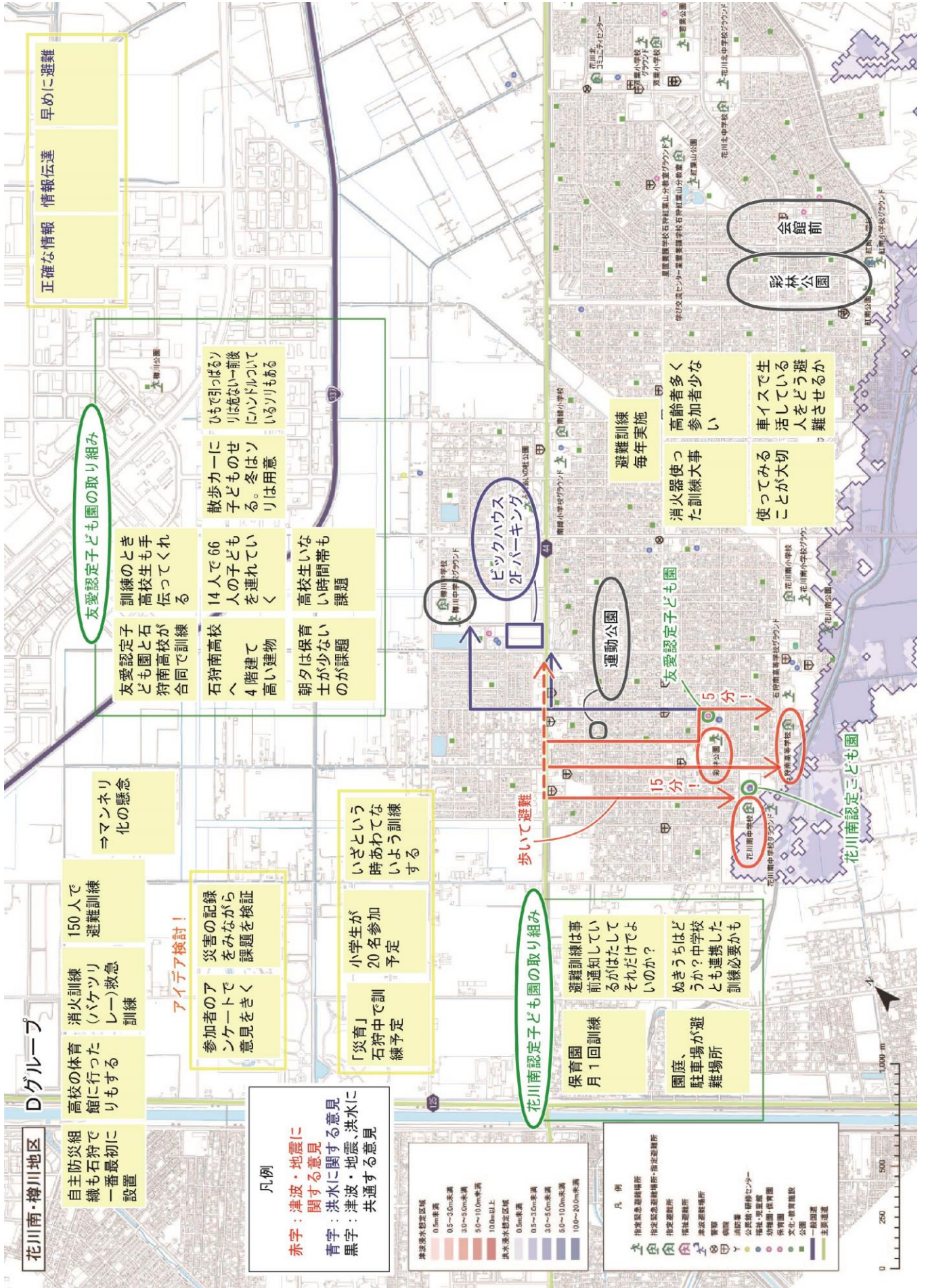
- ・洪水の際は発寒川から離れている樽川中学校やビッグハウス（2F 屋上）、地震の際は石狩南高校や花川南中学校に避難するとよいのではないか。
- ・友愛認定こども園と石狩南高校で共同避難訓練を開いている。より発災時を想定した訓練として、冬季や職員が少ない時間帯等を想定して行うとよいかもしれない。
- ・避難訓練の参加者数は多いものの、訓練内容がマンネリ化している町内会がある。今後は、他の災害の記録を見ながら課題を検証したり、アンケートを行って、参加者の意見を反映した訓練を行うとよいのではないか。

【防災の心得について】

- ・備蓄品がおいしくないものがあるため、実際に試食した上で準備することが重要である。
- ・町内会や保育園で合同の避難訓練を行うとよいのではないか。避難訓練を通じて知り合いになり、助け合える関係を築くことに繋がる。
- ・集合場所や連絡伝達手段等、家族でルールを決めておくことが重要である。



○避難ルートに関する意見



○避難ルートに関する意見交換結果(全意見)

- ・保育園月1回訓練
- ・園庭駐車場
- ・災害～石狩中で訓練予定
- ・小学生20名
- ・いざという時あわてないように訓練
- ・事前通知しているがはたしてそれだけでよいのか？
- ・ぬきうちはどうか？ 中学校とも連携した訓練必要かも
- ・避難訓練 毎年実施
- ・消火器使った訓練大事
- ・高齢者多く参加者少ない
- ・車イスで生活している人をどう避難させるか
- ・使ってみることが大切
- ・正確な情報
- ・情報伝達
- ・早めに避難
- ・高校と合同で訓練実施
- ・石狩高校へ 4階建て 高い建物
- ・14人で66人の子どもを連れていく
- ・散歩カーに子どものせる。冬はソリは用意
- ・ひもで引っぱるソリは危ない→前後にハンドルついているソリもある
- ・150人で避難訓練
- ・訓練のとき高校生も手伝ってくれる
- ・高校生いない時間帯
- ・消火訓練(バケツリレー) 救急訓練
- ・⇒マンネリ化の懸念
- ・朝夕は保育士少し
- ・高校の体育館に行ったりもする
- ・災害の記録をみながら課題を検証
- ・自主防災組織も一番最初
- ・参加者のアンケートで意見をきく
- ・歩いて避難
- ・運動公園、会館前、狩南高校
- ・ビックハウス2Fパーキング

○防災の心得に関する意見交換結果(全意見)

【防災会議について】

- ・②最終的に集まる場所 決めてある(紅南小 集合)
- ・②伝言サービスなどの活用を
- ・ルールを決めておく

【子ども園について】

- ・子どもたちが3日間 食べられる食料
- ・毛布 30～40枚
- ・石油ストーブ 大型ソリ
- ・5年間で備蓄品更新
- ・非常食を食べてみたけど美味しくなかった

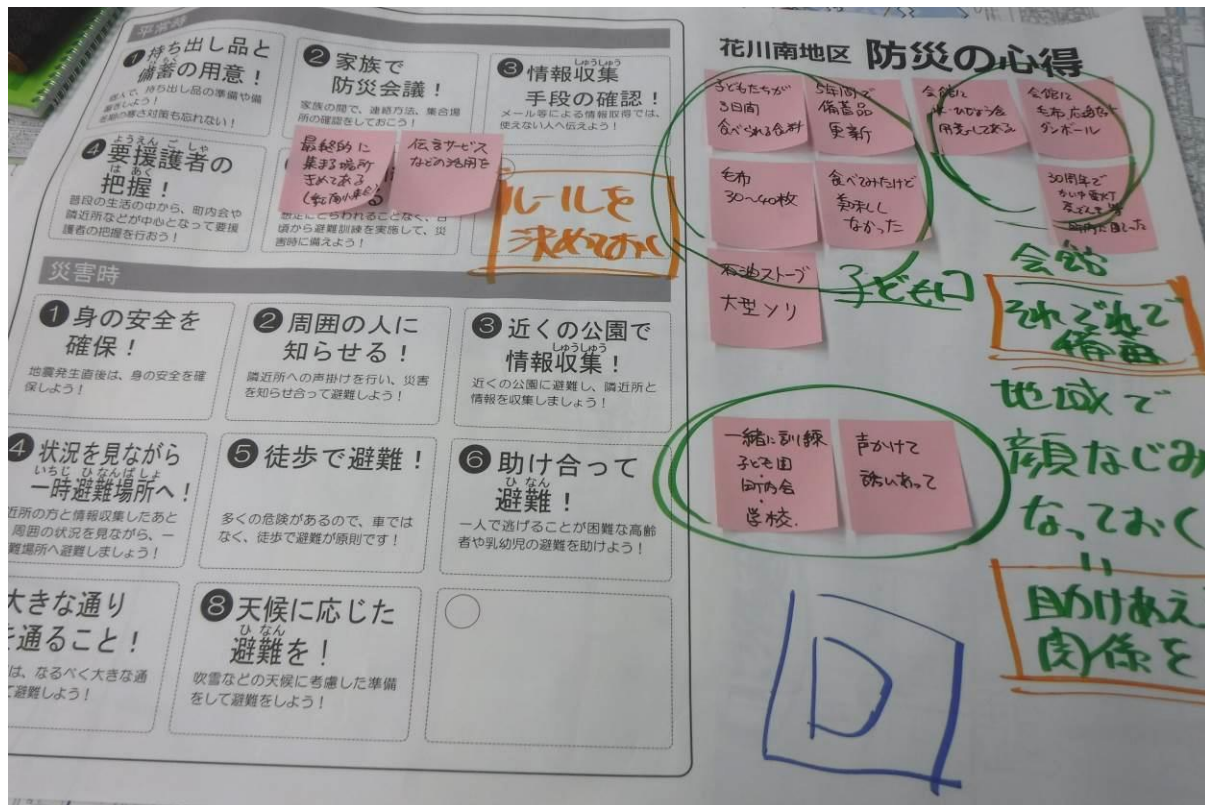
【会館について】

- ・会館に、水・非常食を用意してある。
- ・会館に、毛布、応急セット ダンボール
- ・30周年で懐中電灯、発電機等を町内に配った

【その他】

- ・それぞれで備蓄
- ・地域で顔なじみになっておく＝助けあえる関係を
- ・一緒に訓練 子ども園・町内会・学校
- ・声かけて誘いあって

○当日の写真



E グループ（花川南 8～10 条）

○意見概要

【避難ルートについて】

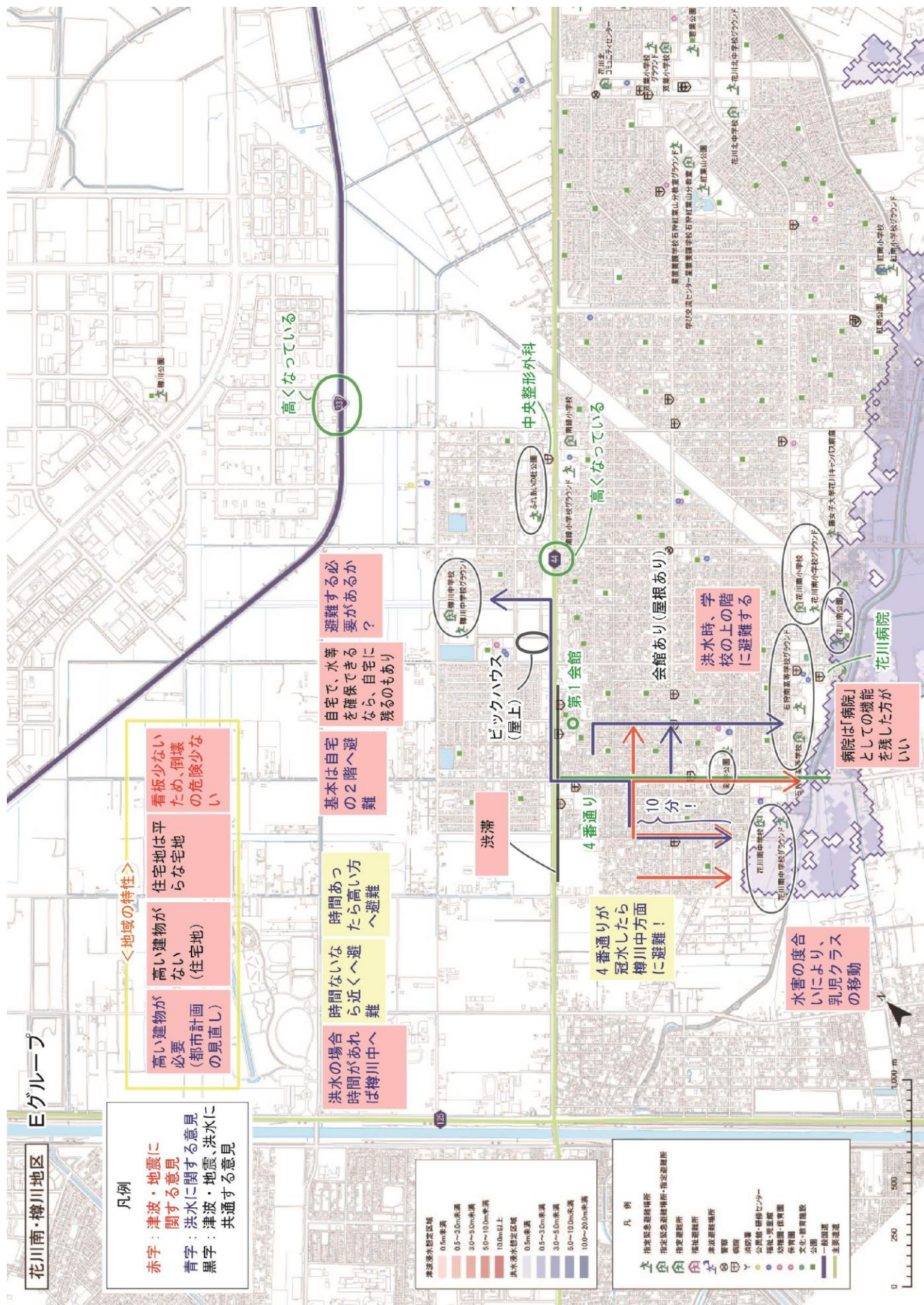
- ・洪水浸水リスクが低い地区であるため、無暗に避難せず、まずは自宅で様子を見るとよいのではないか。
- ・避難の際は、時間に余裕がある場合には発寒川から離れている樽川中学校やビッグハウス、時間に余裕がない場合は石狩南高校に避難するとよいのではないか。
- ・避難のタイミングを各々で見極めることが重要である。例えば、札幌へ抜ける 4 番通りが冠水した場合は、札幌へ避難しづらくなったことを意味するため、これを一つのタイミングにするとよいかもしれない。

【防災の心得について】

- ・自宅で様子を見る際、近所と情報交換することが必要となる。そのため、普段からの付き合いが大切である。
- ・避難のタイミングについて、地域で目安をつくとよいかもしれない。
- ・発災時に身の安全を適切に確保できるかが不安であるため、平常時から確認することが必要である。
- ・防災意識を高めるため、今回の策定会議のような集まりを開いたり、防災マスターの活動を発信していくことが必要である。



○避難ルートに関する意見



○避難ルートに関する意見交換結果(全意見)

- 看板少ない
- 高い建物が必要（都市計画の見直し）
- 高い建物がない（住宅地）
- 住宅地は平らな宅地
- 自宅の2階へ
- 洪水の場合、時間があれば樽川中へ
- 病院は「病院」としての機能を残した方がいい
- 逃げない
- 乳児クラスの移動 水害の度合いにより
- ここがつぶれたら上に避難！
- とどまる
- 洪水時、学校の上の階に避難する
- 第1会館
- ビックハウス（屋上）
- 中央整形
- 時間あったら高い方
- 会館あり（屋根あり）
- 高校
- 花川病院
- 自宅で、水等を確保できるなら、自宅に残るのもあり。

○防災の心得に関する意見交換結果(全意見)

【平常時】

- ①町内会で配布！
- ②家族の通学者等との連絡方法
- ③大切！

【近所づきあいについて】

- 平常時の心得⑥として、「普段から近所づきあい」を追加
- 災害時1人では不安なので
- 皆であつまる
 - ↑
- 普段づきあいが大切！

【洪水について】

- いつまで様子を見るか？
- 情報を早く得る！
- 地域で目安をつくる（4番通りの冠水が目安の一つ？）

【発災時の動きについて】

- 災害時の心得⑦として「発災時の動きの確認」を入れたらよい
- 家にいるときに発災場合の動きを確認すべき
- 回覧板やメールで情報を回す
- 集まりも大切！
- 防災マスターの動きも発信！

○当日の写真

